

OPPA を活用した授業改善に関する研究

—地域素材を生かした社会科の問題解決的な学習を事例として—

M12EP001

石原 裕

1. はじめに

学力向上には、基礎的・基本的な学習内容の定着を図りながら、学習意欲や思考力を高める取組が必要である。そのためには、児童生徒の思考を促し、「考える楽しさ」が実感できる授業を進めることが求められている(新潟県教育庁 2013)。

教育現場においては、授業研究会や研修会などを通して、「思考を促す授業」への改善が進められ、全校体制で授業改善に取り組んでいる。しかし、「思考力・判断力・表現力を育てる具体的な手だて」や「日常的な授業評価に基づいた継続的な授業改善」については、なかなか有効な方法が見つけられずにいる。

本研究では、このような課題を抱えた授業改善を「地域に密着した小学校3・4年生の社会科学習」を通して行う。近年、様々な教科・領域で実践され、成果が報告されているOPPA (One Page Portfolio Assessment) を、地域素材を生かした社会科の問題解決的な学習の授業改善に取り入れその効果を検証する。

2. 先行研究

OPPA を授業評価や授業改善に活用した研究は数多く行われている。しかし、地域素材を生かした社会科の問題解決的な学習の授業改善を目的として、OPPA を活用した研究は見当たらない。

3. 研究の目的

- (1) 地域素材を生かした社会科の問題解決的な学習における授業改善サイクルを検討し提案する。
- (2) 改善した授業を実施し効果を検証する

とともに授業改善の知見を得る。

4. 研究の方法

(1) 実施校・期間・対象・単元

- ① 実施校：山梨県内 S 小学校
- ② 実施期間：2013 年 8 月 29 日
～2013 年 10 月 8 日
- ③ 実施対象：小学校 4 年生
- ④ 実施単元名：「火事を防ぎ，地震にそなえる」(14 時間)

(2) 問題解決的な学習への授業改善サイクルの導入

地域素材を生かした社会科の問題解決的な学習の授業改善を行うため、OPPA を取り入れる。OPPA を取り入れることにより、学習前・中・後における児童の実態把握をするとともに、授業の評価・改善を図る。OPPA を取り入れた授業改善のサイクルは、図 1 の通りである。

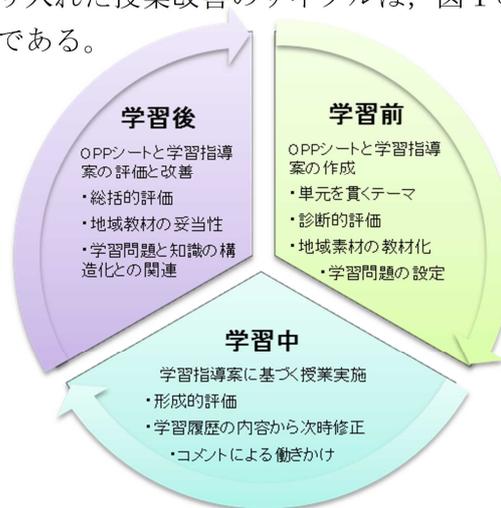


図 1. OPPA を取り入れた授業改善のサイクル

① 学習前(OPP シートと学習指導案の作成)

OPP シート(図 2 参照)を作成するとともに、全 14 回の授業について学習指導案を作成し

た(表1参照)。OPPシートとは、一枚の用紙を用い、「単元名タイトル」、「授業前後の本質的な問い」、「学習履歴」、「学習後の自己評価」の四つの要素から成っている(堀 2011)。本シートはA3用紙を三つ折りにして使用する。



図2. 作成したOPPシート(児童記述済)

OPPシートを作成することにより、「単元を貫くテーマ」が設定され、どのような地域素材をどう採り入れ、何を問題とするのかという「地域素材の教材化」並びに、「学習問題の設定」を進めることが明確になる。結果として、単元構想がまとまり、学習指導案を作成することができる。

表1. 作成した学習指導案の一部(単元構成)

火事を防ぎ、地震にそなえる(全14時間)				
テーマ「火事や災害から暮らしを守るには、公助・共助・自助が大切である」				
時	助	主な学習活動	地域教材※1	OPPA ※2
学習前		OPPシート「学習前の本質的な問い」の記述による児童の実態把握		学習前・診断
第1時	公助	火災のおそろしさについて話し合い、単元の見通しをもつ。		履歴①・形成
第2,3,4時		校内の消防施設について、名前と役割を確認する。校内の消防施設を調べ、学校がどのようにして火事から守られているのか話し合う。	校内消防施設 校舎見取り図	履歴②③④・形成
第5時		119番通報の仕方、通信指令室の役割や関係機関との協力について考える。		履歴⑤・形成
第6時		通報後、消火作業までを短時間に行う消防署の人々の工夫や努力を考える。		履歴⑥・形成
第7,8時		消防署を見学し、消防署の仕事について調べ、見学のしおりにまとめる。	市消防署	履歴⑦⑧形成
第9時		消防署見学を基に、火事から身を守るために必要なことについて話し合う。	市消防年報	履歴⑨・形成
第10時	共助	地域の消防団の働きを調べ、地域における防火や消火の仕組みを考える。	消防団詰所	履歴⑩・形成
第11,12時		校区の消防施設調べをもとに、校区がどのようにして火事から守られているのか話し合う。	地域の消防施設(消火栓等)	履歴⑪⑫・形成
第13,14時	自助	地震などの災害の恐ろしさについて調べ、防災の取組について考える。	防災施設	履歴⑬・形成
学習後		OPPシート「学習後の本質的な問い」「自己評価」による総括的評価 学習による成果の可視化・保護者からのコメント(励まし等)		学習後・総括 自己評価

② 学習中(学習指導案に基づく授業実施)

学習指導案に基づく授業を実施するとともに、OPPシートの「学習履歴」により形成的評価を行う。形成的評価を踏まえ、次時以降の授業の修正、教師のコメントによる個への働きかけを行う。

③ 学習後(OPPシートと学習指導案の評価と改善)

OPPシートの「本質的な問い」「変容の自己評価」により総括的評価を行うとともに、OPPシート並びに学習指導案の評価と改善を行う。その際、本単元で扱った「地域教材」並びに「学習問題」は妥当であったか、検証を行う。

(3) 授業実施と検証

OPPAを取り入れた授業改善のサイクルの効果を検証するために、表1に基づいた授業を実施し、児童にOPPシートおよびふりかえりシート(図3参照)への記述を行わせ、次の方法で効果の検証を行う。

① OPPシートによる検証

児童によるOPPシートへの記述を基に、「地域素材の妥当性」や「学習問題と知識の構造化との関連性」に着目し、授業内容の再検討を行うとともに授業改善を行う。

※1 地域教材として、副読本「わたしたちの南アルプス市」は単元全体を通して使用
※2 診断・形成・総括とは、それぞれ診断的評価、形成的評価、総括的評価を指す。

② 保護者のコメントによる検証

地域素材を生かした授業の効果をはかるため、OPPシート、並びにふりかえりシートに保護者記入欄を設け記入してもらう。

③ ふりかえりシートによる検証

思考力・判断力・表現力の高まりを見とるため、ふりかえりシートの自己評価欄の記述を検討する。ふりかえりシートでは、最初の単元「水はどこから」で使用したOPPシートの学習履歴と本単元でのものとを比較させ、児童に「何がどう変わったのか」を検討させる。その記述の中に、思考力・判断力・表現力の高まりが見られるかを検証する。

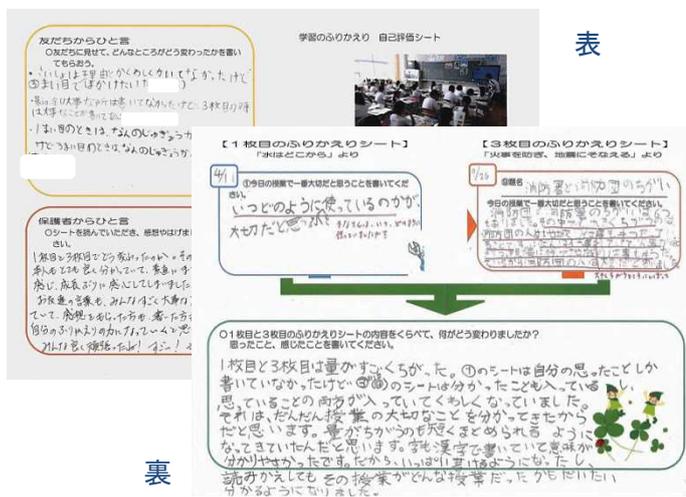


図3. ふりかえりシート(児童記述済)

5. 研究の結果と考察

(1) 問題解決的な学習の授業改善サイクルとその内容

研究方法(2)であげたOPPAを取り入れた地域素材を生かした社会科の問題解決的な学習の授業改善を以下のように行った。

① 地域素材の効果的な活用

単元を貫くテーマの設定、授業間のつながりを意識した単元構成をするため、先ずOPPシートを作成した。教師用のOPPシートに、単元を貫くテーマ「火事や災害から暮らしを守るには、公助・共助・自助が大切である」を記入し、単元を通して児童に伝えたいテーマ

を明確にした。また、それぞれの授業で伝えたい内容も検討し、授業の一つ一つがつながりながら発展していくよう単元を構想し、教師用のOPPシートの学習履歴に記入した。

OPPシートの作成により、単元を貫くテーマの設定と単元構成ができあがると、授業で扱う地域素材も絞り込まれてくる。児童の問題解決の過程をイメージしながら、どのタイミングで出会わすことが効果的な追究を生み出すのか、単元構想と重ねながら教材化を行った(表1参照)。

従来の実践では、校内の消防施設を調べ、消防署のはたらきや工夫、努力を追究し、地域にある消防署の見学を行うことで、単元をまとめていく例が多く見られた。しかし、本実践では、単元を貫くテーマ「火事や災害から暮らしを守るには、公助・共助・自助が大切である」に基づき、住民自らが地域の防災に関わるための「消防団」、地域にある「消防施設」並びに「防災施設」も地域素材として教材化し、共助や自助のはたらきや必要性にも目を向けていくことができるよう工夫した。地域素材である「消防団」(図4参照)を取り上げることで、消防署と消防団との違いや、住民自らが地域の防災に関わるための「消防団」の必要性について、気づくことができたことがOPPシート学習履歴への記述から伺える(図5参照)。



図4. 消防団詰所の見学

表 2. 学習指導案の修正（第 9 時）

授業内容(第9時)	修正した学習指導案	改善点
1. 消防署の見学について想起する。 2. 「出火件数と被害(表)」「火事の原因(表)」の2つの資料から、市の火事はどのように起きているのかを読み取る。 3. 本時の問題をつかむ ずばらしい消防署があれば、火事を防ぐことができるのだろうか 4. 自分の考えをノートに書く 5. 全体での話し合いをする。 6. まとめと次時の予告 7. OPPシートを記入する。	1. 消防署の見学について想起する。 2. 「出火件数と被害(表)」、「火事の原因(グラフ)」の2つの資料(焦点を絞ったもの)から、市の火事はどのように起きているのかを読み取る。 3. 本時の問題をつかむ ずばらしい消防署があれば、大きな火事でも消すことができるのだろうか 4. 自分の考えをノートに書く 5. 全体での話し合いをする。 6. 資料や板書を見ながら、学習問題について確かめる。 7. まとめと次時の予告 8. OPPシートを記入する。	・本時の学習問題で問いかける内容が的外れであったため、既知の知識や経験を生かした学習問題の解決ができなかった。学習問題に取り組み前に、資料を用いてポイントとなる知識を整理するとともに学習問題をわかりやすくした。 ・全体での話し合いの後に、資料や板書を見ながら学習問題について確かめ、本時のキーワードへの理解が共有できるようにした。

(2) 授業改善の結果と検証

① OPP シートの記述の検討

「授業を通して児童に伝えたい内容を適切に伝えることができたのか」という授業の再検討を行うとともに、「授業で扱った地域教材は効果的であったのか」という地域素材の妥当性を確かめるため、OPPシートの学習履歴への記述を活用した。そして、検討から見えた課題を授業改善に繋げていった。

ここでは、表 3 で示した第 4 時ならびに第 12 時の OPP シート学習履歴への記述を取り上げる。

表 3. 学習内容を適切に記述した児童の割合(第 4, 12 時)

時	伝えたい内容	理解の割合
第 4 時	校内の消防施設は、いつ火事がおきてもすぐに発見・消火できるように、バランスよく配置されている。	18/28 64%
第 12 時	地域の消防施設は、いつ火事がおきても、誰でも、すぐに消すことができるように、バランスよく配置されている。	22/28 78%

第 4 時、第 12 時共に、地域教材を扱った授業である。第 4 時は「校内の消防施設」について調べ、第 12 時は「地域にある消防施設」について調べ、それをもとに、学校や地域がどのようにして火災から守られているのかを考える授業である。調べる対象は異なるが、授業の構造自体は似ている。そのため、初めに実施した第 4 時の学習履歴(図 7)から見えた授業の課題を検討することで、改善点

を見出し、それを踏まえて授業実施することで、授業改善を図ることが可能である。そのようにして実施した第 12 時の学習履歴(図 8)に見える改善について述べる。

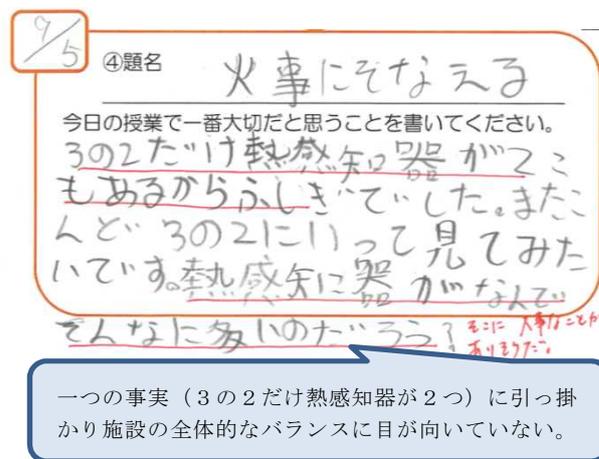


図 7 K 児の学習履歴④

第 4 時では、K 児(図 7)のように、校内の消防施設を調べたことで、興味をもったり、驚いたりしたことに目が奪われてしまい、学習問題の話し合いを通して考えた「校内の消防施設はバランスよく配置されている」ところまで目が向いていない児童が 10 名いた。

施設の配置の様子に気付かせるため、学校の見取り図も用意したが、配置の様子についての意見「1階に施設が多い」「バランスよく施設がある」を十分に深めることができなかったことも原因として考えられた。

について好意的に受け止め、児童に向けての励ましの言葉を記入してくれている。「地域を調べる活動により、興味・関心が高まった」「地域教材を用いることで学びづらい内容を学びとることができた」「学習したことをきっかけに家族で防災の話をした」「学習した内容を読んで、私自身も勉強になることが沢山あった」「次の学習も頑張ってる」などである。

このことから、OPPAを取り入れた授業改善により、地域素材を生かした問題解決的な学習が展開され、児童が体験を通して、思考・判断・表現し、身につけた確かな知識が保護者にも伝わったのではないかと考えられる。

M 児の保護者は OPP シートの記述内容を見て、M 児の学びに感心し、いつ、どこで、どんな状況で起こるか分からない災害について、家庭でも話し合いたいと書いている(図 11 参照)。

S 児の保護者は、中身の濃い学習ができたことを喜ぶとともに、体験を通して地域と具体的に関わることで、将来の夢(大人になったら消防の仕事をしてみたい)を育むことができたと書いている(図 12 参照)。

○保護者の方、シートを読んでいただき、感想やげましをお書きください。

体験を通して、たくさんの方に気付き、感じたり、感じたりした。地震や火事など、いつ、どこで、どんな状況で起こるか分からない災害だから、今日、明日と家族で話し合いたいと思います。消防士の方や消防団の方にも感謝です。



図 11 M 児保護者のコメント

10/24

○保護者の方、シートを読んでいただき、感想やげましをお書きください。

大人になったら消防の仕事をしてみたいと言っていたので、本当にいろいろな事が学ばせてくれて良かった。特に「火」はとて怖いなという事、理解できて、今更な気がして生活していると思ったり。とて中身の濃い勉強が出来て良かった。



図 12 S 児保護者のコメント

③ ふりかえりシートの記述の検討

思考力・判断力・表現力の高まりを見とるため、ふりかえりシートの自己評価欄への記述を検討した。ここでは、検討することで見えてきた OPPO を活用した授業改善が「思考力・判断力・表現力」の変容にどのように影響を与えたのかについて述べる。

図 13 (次項参照) は、ふりかえりシート自己評価への記述である。自己評価欄への記述を見ると、全ての児童が 1 枚目のシートよりも 3 枚目のシートの方が記述に高まりがあったと書いている。ぱっと見て明らかな字数のことは勿論、内容的な深まり、授業のポイントを押さえた記述、表現方法の工夫など、それぞれの指摘は異なっているが、自分の成長を自己評価している記述が見られた。

H 児は『まとめる力!』が成長した(中略)大事な部分を発見できるようになった(中略)この2つのことが成長できて、とてもうれしかった」と記述している。OPP シートを継続的に取り組むことを通して、思考力・判断力・表現力が高まっていくことを実感し、成長を喜んでいる様子が伺える(図 13 参照)。

これらのことから、OPPO を活用した授業改善は、「思考力・判断力・表現力」の育成にも有効であると考えられる。「思考を促す授業」への改善が求められている昨今、資質・能力を育成する具体的な手だてとして、OPP シートが活用できるといえるのではないだろうか。

④ 授業改善の知見

これまで述べてきた OPPO を活用した社会科の問題解決的な学習(地域素材を生かした)の授業改善サイクルの内容と結果考察から、OPPO の有用性を確かめることができた。

第一に、OPPO を活用することによって、「単元を貫くテーマ」が定まり、そのテーマに沿って地域素材を導入することで、地域素材を生かした社会科の授業が可能になるという点である。地域に密着した学習をする小学校 3・4 年生の社会科は難しいとよく言われ

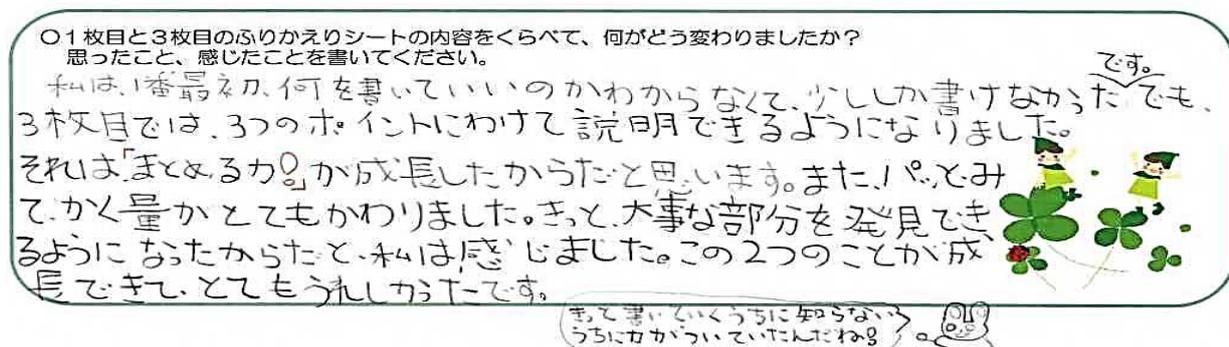


図 13 H児の自己評価（1枚目と3枚目のOPPシートを比べて）

るが、OPPAの活用によって、地域教材が「公民的資質の基礎」を育むために有効に働くことを確かめることができた。

第二に、「思考を促す」授業への改善は、授業改善のための大きなテーマであるが、OPPシートに基づくコミュニケーションを継続的に行うことで、「思考力・判断力・表現力」の育成が行われ、意図的な働きかけによって、学習者も保護者もそのことが実感できるようになるということである。

第三に、年間を通してOPPシートを活用することで、継続的な授業改善が可能になるという点である。授業改善は授業研究会ならびに研修会を通して主に行われてきたが、OPPAを取り入れることによって、実践者の中で常に内化・内省・外化が起こり、一過性ではなく継続性をもった授業改善が可能になったといえよう。

6. 今後の課題

今回の研究を終えて、OPPAを生かした授業改善をより確かなものとしていくために、今後さらに課題意識をもった実践研究を継続していく必要性を感じる。

今後の研究課題として、①子どもの願い・思いを生かした社会科の問題解決的な学習の創造とOPPA、②OPPシートを用いた指導・改善に関わる時間の短縮、③まとめることが困難な児童への働きかけ・手立て等に取り組んでいきたいと考える。

7. おわりに

慌ただしい学校現場に身を置いての教職大学院2年目であったが、自身が抱えていた地域学習を主体とした社会科における課題について、研究・実践・検証をする機会が得られたことは大変、有意義であった。

OPPAを活用した授業改善に取り組んだのは今年が2年目であったが、理論的な背景や授業での用い方、地域素材の効果的な生かし方などについて様々な方から丁寧に指導していただいた。今年度の研究で、OPPAを活用することへの確かな手ごたえを得ることができた。今後さらに実践を重ね、手ごたえをより確かなものにしていきたい。

8. 引用文献, 参考文献

- ・文部科学省(2008)『小学校学習指導要領解説 社会編』東洋館出版社
- ・堀哲夫(2013)『教育評価の本質を問う 一枚ポートフォリオ評価 OPPA 一枚の用紙の可能性』東洋館出版社
- ・堀哲夫(2011)『OPPAの基本的骨子と理論的背景の関係に関する研究』山梨大学教育人間科学部紀要 第13巻
- ・新潟県教育庁中越教育事務所(2013)『授業改善のポイント2013』リーフレット
- ・山口県教育委員会(2012)『学力向上に向けた授業改善のために』リーフレット